

インドネシアにおける「聞き書き」の手法を 活用したESDの実践と普及

〒156-0043
東京都世田谷区松原 1-11-26
コスモリヴェール松原301
電話:03-6432-6580
E-mail:mori@kyouzon.org
http://www.kyouzon.org



はじめる助成

1年目

実践



ポゴールで実施した研修会の様子

研修参加校数	11校
成果発表会参加者数	90人
今年度計画の達成度	100%
活動の全体目標に対する達成度	70%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

インドネシアは多言語国家であるため、地方語で書かれた作品をお互いに理解しづらい点。注釈を入れるなど工夫した。

■ 工夫した点

現地NGOや大学関係者、行政関係者をできるだけ多く巻き込むようにし、結果、政府(環境大臣等)にも活動をアピールできたこと。



課題

インドネシアでは急速な経済発展とともに伝統的な文化や暮らしが圧迫されており、多民族・多文化共生について学ぶESDプログラムが必要とされていること。

目標

「聞き書き」の手法を活用したESDプログラムを実践し、地域の自然環境、開発、文化、貧困問題等を自らの課題としてとらえ、その解決に向けた行動を行う高校生を育成する。

活動内容と成果

●ジャワ島、スラウェシ島、カリマンタン島の計11校の高校生が参加する研修会をポゴール農科大学附属コルニタ高校で実施した。●25名の生徒が自然とともに生きてきた名人(農民や職人、漁師等)を訪ね、材し、作品に

まとめた。●カリマンタン島バランカラヤ市で開催した成果発表会には行政関係者、教員、NGO等、約90名が参加。●成果発表会の様子は映像で記録。生徒の作品は、将来、印刷したりホームページ等で公開するため、版下データにまとめた。●現地体制づくりに向けた協議をNGOや大学関係者等と行った。



成果発表会で優秀作品に選ばれた高校生

今後の展望

次年度は、スラウェシ島ゴロンタロ市で研修会を開催。さらに活動の普及に努める。また、現地体制づくりを継続して実施。活動普及のためのホームページ製作も行いたい。